

青陵

ごあいさつ



同窓会副会長
岡田 展 弘
(25期)

岡山県を代表する進学校に誇り

青陵高校同窓会会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より同窓会活動に多大なるご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

私は25期生の岡田と申します。評議員を経て現在副会長という大役を仰せつかっております。

青陵高校は、本年度創立106年目を迎え35,500人を超える卒業生を送り出しています。「同窓会だより青陵」でも毎号紹介させていただいておりますように、数多くの卒業生が各方面で活躍されておられることは大変喜ばしく、素晴らしいことだと思います。

わが校は、「自主と責任」、「文武不岐」をモットーに、生徒と教職員が一体となって学習面ではきめ細やかな学習指導が行われ、部活動などにも積極的に取り組み、岡山県を代表する進学校となっています。

私が在学した40年前と比べ教育環境は大きく様変わりしています。現在ICT（情報通信技術）を活用した教育の情報化が進んでいます。青陵高校においても本年度、全クラスに導入されました。

ICTの導入により、生徒の学習意欲の向上、社会で必要とされる創造力や表現力、思考力、コミュニケーション力が高まると言われております。今後、青陵高校の更なるレベルアップが図られるものと大いに期待しています。

同窓会では、加川会長を中心として役員一同、母校の発展と同窓生の皆様に喜んでいただける活動に取り組んでいるところです。

同窓生の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご協力をお願いいたします。

校 長 ひさし
田 中 尚
(同窓会名誉会長)



ノーベル賞候補 大きな刺激に

同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のことと拝察申し上げます。また、平素から母校へのご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年数十年に一度の災害を想定した「特別警報」が各地で出され、広島県では集中豪雨による甚大な被害が発生しました。研究者の証明を待つまでもなく、明らかに温暖化の影響であることは実感できます。

この温暖化も見方を変えれば人災であると言えます。であるならば、人の手によって解決していかなければいけません。私は、青陵生に期待しています。

これまでも青陵高校は35,500人を超える卒業生を輩出し、各界のリーダーとして活躍されている方が多くいます。

今年9月には、28期生で京都大学の森和俊教授がノーベル賞の登竜門と言われる米国の医学賞「ラスカー賞」を受賞されました。誠にありがとうございました。がんやパーキンソン病などの新薬開発につながる研究で、今後、人類に大きな貢献をもたらす可能性のあるものです。

10月にはノーベル賞の可能性が新聞等で報道され、本校にも多数の取材がありました。このニュースは在校生にとっても大きな喜びと同時に大きな刺激となりました。来年もノーベル賞発表の時期が楽しみです。

昨年度は、同窓会からICT機器の整備にご支援をいただき、より高いレベルでの学力養成に活用させていただいております。青陵高校は使命感を持って頑張ります。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

本部だより

同窓会本部総会

(平成26年8月3日、倉敷アイビースクエア)

35期

徳田 政太郎

台風の影響であいにくの空模様でしたが、恩師の米井郁人、小山裕章、小橋勲、福島隆寿、水間正雄、小野善隆の各先生方をはじめ総勢280人余りのご参加をいただき、盛大に総会を開催することができました。

OBへア。会は最高潮に達した
応援歌を力強くリードする応援団



まず、初の試みとして、現役青陵生によるセレモニーが行われました。女子生徒5人の応援団からは初々しく、かつ頼もしいエールをもらい、平成12年創部のコーラス部による素晴らしい混声合唱に心洗われる思いがしました。

まず、初の試みとして、現役

応援団、コーラス部 堂々の賛助出演

続いて、加川英郎同窓会長(4期)、田中尚名誉会長(校長)からご挨拶をいただきました。田中名誉会長からは、青陵生の学業や部活動の動向について紹介がありましたが、その躍進ぶりは目覚ましく、同窓生として大変誇らしく思いました。

総会議事、各支部の活動報告、そして恩師の先生からのお言葉の後、今回は45期の内田さんの発声による乾杯で懇親会の幕が開きました。歓談中には担当期の集合写真撮影も行われ、賑やかな時間が過ぎました。

宴も終盤。全員による校歌斉唱と陵歌のDVDに心は高校生時代にタイムスリップ。そして締めくくりは25期の大熊さんと藤原さんによる全青陵OB・OGへの応援歌。「…に疲れているあなた! そんなあなたに贈ります!」と、ユーモアとウィットに富んだ力強いエールを贈っていただけ、会場は大いに盛り上がりお開きとなりました。

ところで、今回の総会で私たち35期は過去最高の30人が集まりました。遠くは東京や千葉から駆けつけてくれ、卒業以来の再会もあり、30年の時を超えて友との絆の強さと素晴らしいさをあらためて感じた次第です。

ご出席の皆様、ありがとうございました。 □…徳田さんは同窓会副会長です。



女子ばかりで再結成された応援団。参加者はびっくり



校歌など3曲を披露した混声合唱のコーラス部

陵歌でクライマックスに

参加者ひとこと

❖奥山(旧姓三宅) 芙美子さん(4期)

「この会には5年連続で出席しています。在学中はコーラス部と絵画部に入っていました。忙しかった? いやそうでもなかったよ。自営でソックスの製造をしていましたが夫が亡くなって、今は田んぼを少ししています」

❖中桐 泰さん(12期)

「12期は毎年20人ほど来ます。中学から野球やってて青陵でも野球部。人数が足りなかったんで投手や内野手などいろいろやりましたよ。ガソリンスタンド経営の傍ら民生委員を30年しています」

❖中川(現姓奥田) 京子さん(35期)

「近畿青陵会の幹事をしたのがきっかけで年3、

4回同期会をしています。東京の同期を交え、みんな仲いいですよ。きょうは30人が参加しました。大阪でフリーアナウンサーをしています。子どもは中1高2の1男1女です」

❖内田(旧姓平松) 英美さん(45期)

「当番幹事として初めて出席、乾杯の音頭をさせてもらいました。同窓会事務局からの指名です。在学中は帰宅部でしたねえ。福祉施設を運営する会社(本社岡山市)に入って16年。常務取締役をしています」

□…第45号本欄の河原清次さんの記事で「土曜稽古」とあるのは「土用稽古」の誤りでした。訂正します。

〈表紙揮毫〉
澤田虚遊氏(21期)
〈表紙写真〉
空から見た母校=
平成25年5月撮影

森京大教授(28期)にラスカー賞

米国で最も権威のある医学賞

日本人細胞の小胞体機能を解明

米国で最も権威のある医学賞で、ノーベル賞の登竜門といわれる「ラスカー賞」の今年受賞者に、京都大学の森和俊教授が選ばれました。米国の

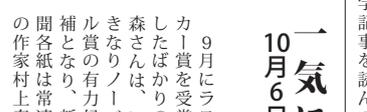


共同受賞者のワオルター教授と森教授(左)米ニューヨーク

ラスカー財団が平成26年9月に発表しました。森さんは28期生です。9月9日の新聞各紙に大きな見出しが躍りました。森さんは細胞内の小胞体と呼ばれる小器官でタンパク質が折り畳まれて正しく機能するための仕組み「小胞体ストレス応答」を解明しました。研究は、がん細胞の増殖抑制などさまざまな病気の治療につながる可能性があります。森さんによる「この世界では」ガイド「ラスカー賞は銅メダル、ラスカー賞は銀メダル、ラスカー賞は銅メダル、ラスカー賞は銀メダル」です。山中教授はその後、ノーベル医学生理学賞を受賞しました。

森さんによると「この世界では」ガイド「ラスカー賞は銅メダル、ラスカー賞は銀メダル、ラスカー賞は銅メダル、ラスカー賞は銀メダル」です。山中教授はその後、ノーベル医学生理学賞を受賞しました。森さんによると「この世界では」ガイド「ラスカー賞は銅メダル、ラスカー賞は銀メダル、ラスカー賞は銅メダル、ラスカー賞は銀メダル」です。山中教授はその後、ノーベル医学生理学賞を受賞しました。

森さんのノーベル賞受賞を待つ緊迫した青陵校長室



森さんのノーベル賞受賞を待つ緊迫した青陵校長室

一気にノーベル賞候補 10月6日発表ドキュメント 緊迫の青陵校長室

9月にラスカー賞を受賞したばかりの森さんは、いきなりノーベル賞の有力候補となりました。新聞各紙は常連の作家村上春樹さんらとともに医学賞に森さんの名前を頻りに挙げていました。10月6日、発表の日、青陵高校は朝から緊張感に包まれました。森さんと青陵の歴史の瞬間、そのドキュメント。

記者会見の準備に追われる三谷教頭から午前中、元新聞記者の本紙編集委員にマスコミ対応の相談があり「受賞のお祝いの」校長談話を用意して高3の担任が剣道部の顧問が健在なら「アドバンス」屋のテレビ情報番組「森さんは有力かも」とコメンテーター「タカ、山陽まで新聞3社が取材のため校長室を訪問/机上のインターネットのライブをそのささむ田中校長、その後の青陵OBの同校教諭で森さんの同僚2人が待機/斜め前からカメラを構える報道陣/「山中伸弥さんはラスカー賞から3年かかった」の声に「いや、利根川進さんは同時にもらった」とその教頭は興奮気味/その瞬間一斉に拍手/OBの教諭2人はがっかり/握手の手はずが整う/緊迫の一瞬、午後6時半すぎ、無情にも受賞者の中に森さんの名前がなかった。「一同ため息」。報道陣に「来年はいける、また来てね」と軽いジョークで解散。お疲れ様でした。

森さんに倉敷市民栄誉賞

星野さんらに次ぎ4人目

ラスカー賞受賞の森和俊教授に11月3日午前、倉敷市から市民栄誉賞が贈られました。森さんの多大な功績をたたえ、郷土倉敷の誇りとして顕彰されました。

代からよく読んでいた新聞の科学記事の中で素粒子物理学にびつくりしました。物は何か、物事の根源は何か。そのうち分子生物学に興味を持ちたいと、両親を伝えた。式には両親をはじめ

め田中尚青陵高校校長ら森さんの母校の小中・高校の各校長など多数の来賓が参列、森さんの受賞を祝いました。

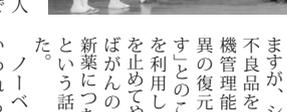


伊東倉敷市長から市民栄誉賞を受ける森さん(市役所)

市民栄誉賞は星野仙球・高橋大輔(ワイギョウアスケート) 荒木絵里香

味野中生徒と問答形式で 森さんが栄誉賞受賞記念講演

同日午後、味野中学校の味野中市民栄誉賞受賞記念講演会を開催しました。母小、味野小、味野中生や森さんの同級生、市民ら約550人が参加。小胞体ストレス応答「私達が驚異の復元力」と題して1時間余り熱弁を振りました。専門的な内容なので理解しやすくするため、ステージ上で味



森さんが栄誉賞受賞記念講演

野中の生徒代表3人を相手に問答形式で進行。森さんは生き物の成り立ちや人間の細胞の数など基礎知識を生徒に質問しながら興味を引きつけて核心に迫り、「細胞内の小胞体の中で針金細工のベンチの役割をするのがシャペロンです。このシャペロンが働いてタンパク質が折り畳まれ正しく機能します。しかしストレスによりある程度タンパク質が壊れてしまえば、シャペロンが修復能力を改善する危険な状態になります。これを修復力といえます。復元力を利用してストレスを止めてやる、例えばがんの研究が進み新薬につながります」という話で締めました。

ノーベル賞候補といわれる森さん。県外からの参加者も聴く機会のない卓越した専門家の貴重な話に熱心に耳を傾けていた。倉敷が「森デー」となった文化の日でした。

森にプロレス技をかけた!

早速、9月に受賞したラスカー賞について聞かれると、「同じような研究をしている世界の相手と、どちらが先に論文を出すかの死闘を繰り返した。(米国留学から)日本に帰った男が対等以上に頑張ったということとびっくりするよ」と裏話を披露。剣道部時代。当時の主将・三宅厚宏さんは「森は強かったよ。団体戦は主に中堅として活躍してたなあ。(ノーベル賞発表の10月6日は)仲間と乾杯の練習?をした」と笑いながら話していました。

やあ、おめでとー。倉敷市民栄誉賞授与式出席のため帰倉した森さんを囲んで11月2日、青陵高時代の剣道部同期(28期)主催の祝賀会が市内の料理店で開かれ、森さんに次々祝福の声が掛かりました。祝賀会には先輩OBや同期の青陵高教諭ら13人が出席。井上善弘さん(21期)＝同窓会副会長＝の発声で乾杯して開宴。森さんに、お祝いとして渡辺英気さん(26期)から、出席者による記念品の目録が贈られました。

剣道部同期にぎやかに祝賀会

児島からバス通学の森さん。「練習を終えて倉敷駅へ自転車組と歩いているさまは、まるで取り巻かれているようじゃったよ」と誰かが言えば、「そうかのお、森はびびりじゃったよ。」これに答えて「青陵ではマイナーだったよ。もてなかったしな。それに引き換え〇〇は(パレンタインデーの)チョコレートの山だもんね」…。森さんの元気な声が響き渡ると、「おい、早くノーベル賞とっくれー。『ノーベル賞男を(当時)ウチへ泊めた』とか『あの男にプロレス技をかけたんじゃ』とか言わしてくれ。」さすが「同じ釜の飯、仲間。思い出話は尽きませんでした。



森さん(前列中央)の剣道部時代のエピソードが尽きなかった祝賀会の出席メンバー。倉敷市内の料理店

出席者が昨年より多かった東京青陵会のメンバー



平成26年度総会は、来賓として倉敷から加川同窓会会長、井上副会長、青陵高校からは田中校長、船越先生、恩師として古畑先生、倉敷市東京事務所から早瀬所長をお迎えし、合計101人の出席をいただきました。ご出席いただきました皆さま方には厚くお礼を申し上げます。

当会の事務局運営に当たり、ご指導いただきました関藤会長、日岡さん、河崎さん、お忙しい中、準備段階から会場を提供していただいた寺山さん、温かく指導いただいた西さんをはじめ36期、37期の諸先輩方、会計担当の山田さん、力を合わせて当番幹事を一緒にやり遂げてくれた同期の佐藤(真)さん、奈喜良さん、山口さんにあらためてお礼を申し上げます。

会は和やかな雰囲気始まり、関藤会長からの挨拶、会計報告、来賓の田中校長のご挨拶、乾杯に引き続き、恩師の古畑先生をはじめ、来賓の皆さまから挨拶を頂戴いたしました。

出身中学校別に席替え

今年の企画として、出身中学校別の席替えを行いました。和太鼓も加わり、陵歌「桜花爛漫」、応援歌をみんなで熱唱。最後に全員で校歌斉唱しました。さらに全員で記念写真を撮影しました。

今年、NHKアナウンサーの41期山下さんに司会、進行をしていただきました。会がスムーズに進行し、さすがプロと思わせるフレーズも多々ありました。心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

私自身、東京青陵会の参加は3度目と比較的参加歴が少ないため慣れない点が多く、ご迷惑をおかけしたかもしれません。お詫びします。本当に貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちで一杯です。

来年は6月27日(土)午後3時から明治記念館で行います。多くの皆さまからの要望により開会時刻を早めました。皆さま是非ご参集くださいますようお願い申し上げます。

なお、総会では、役員は全員再任されました。

寄稿

30期 日岡秀和

東京青陵会の10年

青陵一家(母の孝子が4期、姉の典子が27期)で育った私が東京青陵会総会に初めて参加したのは平成15年です。その後は毎年最重要行事として欠かさず出席しています。

平成17年度からは総会当日のお手伝いをさせてもらうようになりました。東京青陵会の運営、開催状況を知っていたらこうと、この10年間について書かせてもらいます。

17年度は最多148人参加

10年前の平成17年度は7期の大山卓さんが2代目会長に就かれた年です。21年度に25期の関藤佳範さんが3代目の会長となり現在に至っています。

参加者数は17年度の148人が最多で22年度の86人が最少でした。毎年100人前後の参加者があり、23年度からは大学生、新卒生も参加するようになってきました。

我ら30期生が期幹事となった19年度は26人の同期生が集まりました。しかし翌年幹事となる31期生は参加者ゼロ。31期生に連絡を取り合同で幹事を務めました。



32期生からはどうにもならず、本来はサブ幹事となる22期生をお願いをし、8期生の料治宏尚さんにも助けていただき何とか総会を開催することができました。さらに翌年も期幹事の33期生が不在のため23期生に、その翌年は24期生が幹事となって乗り切りました。

平成23年度からアクセスの利便性により椿山荘から明治記念館に会場を変更しました。この年は東日本大震災が発生しました。開催の是非を幹事会で何度も議論し、一時は中止も検討しましたが、会場に募金箱を設け被災地に募金を届けるということで開催に踏み切りました。

24年度からは蛮カラな昔を偲び青陵名物「陵歌」を歌うコーナーを新設。和太鼓も登場し陵歌生の方に青春時代に戻れる懐かしい時間を過ごしてもらうことにしています。

私は総会・懇親会は年に一度の「青陵祭」だと思い毎年楽しみにしています。出席者に有意義な時間を過ごしていただけるよう盛り上げていきます。

東京青陵会を介して就職相談やビジネス情報を仕入れる方、結婚された方もおられます。首都圏で活躍する青陵生の情報発信基地として今後も会の発展に協力します。

なお、首都圏ではfacebookページの「東京青陵会」で情報を発信していますのでご覧ください。

□…日岡さんは東京青陵会副会長、東京倉敷ふるさと会副会長、(株)PTS専務取締役。倉敷市出身、埼玉県在住。

全国のツカファンに愛と夢と感動の華麗なステージを届けて平成26年4月に創立100年を迎えた宝塚歌劇団。憧れのタカラジェンヌの登竜門、宝塚音楽学校の定員は約40人という狭き門は有名です。青陵時代、宝塚受験を告げた担任に「頭を冷やせ」と教員室に立たされるとい昔の小学生のような“お仕置き”を乗り越えてタカラジェンヌになった逸話をもつ元月組のスター旺なつき（本名室山こずえ）さん=26期=に、受験期や宝塚時代の思い出、さらに近況や心境を聞きました。（聞き手は編集委員）

祝
宝塚歌劇団創立100年
元タカラジェンヌ
旺なつきさんに聞く



担任の反対に「それでも受けます」

—宝塚創立100年おめでとうございませう。
—感想を。
—ありがとうございます。記念式典に古巣へ帰り参加しました。先輩、後輩が汗と涙でつないだ一世紀という宝塚の歴史の重みをあらためてずっしりと感じました。
—伝統があり狭き門、さらにしつつけの厳しい宝塚を目指した動機は何ですか。受験前後のEPISODEもお願ひします。

宝塚音楽学校の存在を知ったのは高3の夏でした。受験資格は「高卒まで」とありました。おそらく落ちるだろうけど挑戦するならラストチャンス。なら、やってみるか！ツカファンでもなかったんですが、まるでアクシデントのような進路選択でしたね（笑）。担任の先生も面食らったと思いますよ。教員室に立たされた後、「それでも受けます」と宣言しました。私の意志の固いことを確認した後は親身に応援、その後、先生は宝塚に何度も見に来てくださいました。その時の級友の反応？もちろん理解者、今もそうです。

—音楽学校の2年間の生活はどうでしたか、イジメとかは。
—バレエや演劇、三味線など「十種競技」以上の芸の基本を徹底的に仕込まれました。倒れる人もいたほどです。強烈なイジメは現にありません（笑）。あいさつや掃除…。しかし、これはあくまでも生活指導の一環です。逆に、落ち込んで泣いている同期の仲間を励ます連帯感が生まれました。苦しい時期を一緒に乗り越えた同期生は今も大切な宝物ですね。

—さあ、憧れのタカラジェンヌになりました。
—「風と共に去りぬ」で初舞台を踏み、退団公演の「ガイズアンドドルズ」まで月組の男役を8年務めました。人生前半の充実期で、将来の基礎が固まったことは間違いありません。月組で一緒に過ごした人に4年先輩の大地真央さん、4年後輩の黒木瞳さんらがいます。
—宝塚100年の歴史の中で旺なつきの果たした役割、貢献をどのように位置付けていますか。

颯爽と月組の男役、充実した8年

—100年間で生まれたタカラジェンヌは4,400人。私は63期生で46人の仲間がいます。みんなで紡いだこの歴史の1こまに、自分も確実に呼吸していたことを誇りに思います。
—退団後は舞台女優になりました。ベテランになり最近見えてきたものはありますか。
—舞台女優になってもう30年になります。芸に對し誠実、謙虚であること！これがこの世界に生きる基本かもしれません。そしてそれを支える健康が重要です。



—家族は皆さん創造的、社会性の高い仕事をしていますね。
—父は倉敷市助役を務めた作詞家、兄室山哲也（23期）はマスコミ人。みんな良き理解者です。姉II岩坂（現姓）直美・21期IIの娘は私と同じ女優、息子はテレビ局のカメラマン。似たような世界にいるので彼らとの会話は楽しいですよ。そういう家系なんですかね（笑）。

—オフはどのように過ごされていますか。それと趣味は。
—温泉旅行でのんびりします。趣味は詩を書くことです。
—最後に青陵の在校生にメッセージをお願いします。
—お忙しい中、人の生き方に対する示唆に富んだ皆さんの言葉をいただき、大変ありがとうございました。ますますのご活躍をお祈りします。

偽りのない真の自分を真摯に探して

—旺なつきさんは青陵創立100周年記念誌にも寄稿しています。
—：帰岡の機会がなく直接お会いできませんでしたが、書面でインタビューに的確にお答えいただきました。

「プロフィール」旺なつき
1956 昭和31年、倉敷市生まれ。1985（同60年）宝塚歌劇団に8年在籍後退団。その後はミュージカル、ストレートプレイ（ミュージカル以外の演劇）を問わず数々の舞台に主演。代表作に「ジュディ・ガーランド」、「おおー星条旗娘」（N・サイモン）、「レット・コラージュ」（文化庁芸術祭賞受賞）、「山彦ものがたり」（中国、ベトナム、韓国、米・ニューヨークを含む）、「桜の園」（チエホフ）、「奴婢訓」（寺山修司）、「花よりタンゴ」（井上ひさし）など。
平成26年は「赤毛のアン」で全国ツアー、「ブックシヨップ「マレーネ」」などにも出演。アフレコやラジオドラマのほかテレビ出演、モデル、詩集出版など多彩な活動を展開している。身長164cm、愛称ムム。東京都在住。



4期生 傘寿祝い大挙出席

27期 西澤吉樹

今年の近畿青陵会総会は、来賓として学校より三谷昌士教頭、加川英郎同窓会長(4期)、岡田展弘同窓会副会長(25期)、そして恩師の渡辺重吉先生(数学)、福島隆寿先生(美術)にお越しいただきました。昨年より増えて総勢88人の参加をいただきました。

担当幹事は7期、17期、27期で、役員とともに何度か会合を持ち、ご招待する恩師や役割分担を相談しながら準備を進めました。

会は島逸雄さん(17期)の司会で始まり、開会の挨拶を加川哲雄さん(7期)より、また近畿青陵会大水勇会長(14期)から挨拶をいただいた後、総会を開会。平成25年度会計報告を大月修会計幹事(19期)より、また監査報告を福田京子会計監査(22期)よりしていただき、いずれも承認されました。

次いで役員の変更が提案され、松野登志子副会長(16期)、福田京子会計監査(22期)の後任に、白神宏之副会長(26期)、御手洗伸子会計監査(30期)が選出され、留任の役員とともに承認されました。

引き続き懇親会。まず三谷教頭よりご挨拶をいただき、青陵高校着任時の思い出、現在の青陵の状況、特に明日の日本を担う人材を育てる観点から指導に力を注がれていることなどをお聞きしました。加川会長からは、「同窓会だより」配布の状況や同窓会への支援につ



参加者がさらに増え盛会だった近畿青陵会の総会

いてのお話を含むご挨拶をいただき、岡田副会長の発声による乾杯で会はスタートしました。

歓談中には、渡辺、福島両先生から青陵の思い出と先生の近況をお話いただきました。特に今年は4期の方々が傘寿のお祝いのために14人も参加していただき非常に意義のある会となりました。各テーブルからもスピーチをいただき、和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。

最後に全員起立して恒例の校歌を斉唱しました。ではまた来年お会いしましょう！

私の青陵時代

自然に感動した大山登山

18期 難波直子(旧姓藤原)

昭和39年4月、私はあこがれの青陵高校に入学しましたが、その頃は天城高校と2校の総合選抜でした。家が天城高校に近かった私は、いつも多くの天城高校生とすれ違いながらの通学でした。ではなぜ家から近い天城高校を選ばず、青陵高校を選んだかという、母が倉女35期卒業生で母の勧めがあったからです。

私の在学当時は、先生方から大学受験は「4当5落」などと言われ、みんな勉学に励んでいましたが、そんな中でも私たちは学校の帰りに気の合う友達と、カバンを持ったまま美観地区をそぞろ歩き、「古市」でうどんやお好み焼きを食べながら、時間も忘れておしゃべり。この頃の友達が今でも一番の友達になっています。

3学年合同で取り組んだブロック別対抗の体育祭。仮装行列では黒人奴隷役で、耳の中まで真っ黒に！ 所属していた社研部で夏休みに公害調査。それをレポートにまとめて発表した文化



祭も忘れられません。

一番思い出深いのが1年生の夏の大山登山です。担当が山岳部顧問だったので私も連れて行ってもらい、夏山登山道から弥山に登り尾根を縦走しました。

この時の自然の雄大さが忘れられず、その後登山を趣味とするようになりました。

夫と2人テントを担いで日本アルプスの山々をさすらった30代、40代。平成17年には日本百名山を制覇、60代後半に差し掛かった今も山に登り続けています。

卒業してからはや48年。多感な青春時代を過ごした青陵時代は、いつまでもたっても忘れられません。目を閉じれば懐かしい友の顔や楽しかった数々の出来事が走馬灯のように今でも次々と浮かんできます。

同窓の皆様のご健勝をお祈りします。

□…「4当5落」は睡眠4時間で頑張れば大学合格、5時間なら合格しないという怖〜い俗説。

こぼれ話 合併も男女別校舎で騒動誘発

昭和19年4月開校。この年新設を許可されたのは倉中のほかは仙台市にその一例を見るだけ。当時の国情で中学校が新設されるのは異例のこと。関係者の熱意がしのばれる。

少し前の話ですが、「青陵高校誕生記—昭和一桁生まれの青春」と題して2期生・大森啓作さん(故人)が地域機関誌「高梁川」53号(平成7年発行)に力作を寄稿しています。同誌は倉敷市教委が年1回発行、70号を超える伝統ある機関誌です。

大森さんは27ページにわたり、前身の倉中(旧制倉敷中学校)入学前後から倉女(当時倉敷精思高校)との合併・青陵誕生、卒業式騒動までを、エピソードをふんだんに入れて愉快地振り返っています。

単に青陵誕生の沿革にとどまらず、戦時中の耐乏生活と迫りくる敗戦、戦後の混乱、さらに学制改革による旧制中学から新制高校への過渡期という二重の変革

期を体験した興味深い青春ドラマとなっています。

合併・青陵誕生前後のエピソードが特に面白いので一端を紹介すると—。

「新校舎(富井校舎)は高梁川の廃川地。起伏の激しい、うねり狂っている砂浜であった。ここで学んだ1~3期の富井健児の集いは、誰言うとなく『砂漠会』と呼称…」

「女子の美和校舎に行った者がいる。『花園を荒らす者は誰か』—。こんなことでなぜ叱られにゃあならんのだら！」

この一件が遠因となり、

「2期生の卒業式。『蛍の光』も『仰げば尊し』も『炭坑節』のメロディーで歌った。このことはその日の夕刊の記事になった」

以上、大森さんは表現力豊かにまとめています。

□…大森さんは昭和20年入学、26年卒業。元中学校校長。

□…妻慶子さん(旧姓三宅)も11期生です。

「青陵誕生記」
大森啓作さん(2期)

機関誌に
遺作

いつか自分も立派な先輩に

すみだ
63期 角田 晃三

こんにちは。現在大学3年生で、九州青陵会に3回目の出席をさせていただきます。平成26年度九州青陵会は、大先輩方に交じって学生が4人集まり総勢20人が参加、アットホームな雰囲気で行われました。学生としては会場に入るまでは毎年緊張するのですが、どの先輩も親しみやすく楽しい方々で、まさに高校時代の仲間と再会したかのようでした。

とは言ってもまさに亀の甲より年の功というよりほかなく、そこでお聞きする言葉に重みを感じずにはられません。自分よりも先を生きておられる立派な先輩方のたくさんのアドバイスを、これほどフランクに伺える機会はそうないのではないのでしょうか。私が毎年参加する理由もまさにこの点と、学生は会費無料という特典にあります。

人との関わりは財産だと思います。故郷から遠く離れた九州でテーブルを囲み、同じ学び舎の青陵高校を軸にして世代を超えて対話ができることはとても楽しいと実感できます。堅苦しいのではないかと思いましたが窮屈さは全くありません。何よりこうした機会は貴重で、得られるものが大きいと感じています。

自己紹介を交えて近況報告をすると、それに対していろいろな方々にお話をいただきました。大学生という中途半端な？ 時期で



アットホームな雰囲気です。盛り上がった九州青陵会（後列右から2人目が筆者）

あるゆえに、悩むことも少なくありません。そうしたときに、こうして人生の先輩とお話ができることはとても有意義なものです。何といっても厚みのある青陵の先輩とこうして言葉を交わした経験は、後々の人生においても効いてくるのではないかと思います。いつか自分もこの先輩方のように立派な姿を後輩に見せることができる人間になりたいと思います。

最後になりましたが、会のお世話をしてくださった皆様、出席された皆様に感謝申し上げます。

□…角田さんは九州大学3年生です。

19期 近藤 覚 あきら

寄稿

20期 加藤 榮一

2014（平成26）年5月、世界最大級の豪華客船（現在三菱重工工業長崎造船所で建造中）が進水、長崎港に姿を現わした。その偉容は長崎の明るい未来を予感させた。



思い出すのは、2002（平成14）年10月1日夕刻に発生したダイヤモンドプリンセス（当時同造船所で艀装工事中）の火災。出火時、私は総合試験統括として現場で指揮をしていた。火災発生、煙を視認、即座に千数百人の作業員を船外に退避誘導した。工事中のため船内放送が使用できず、口頭で下船指示を伝達。全員退避まで約1時間を要した。この時、一人の負傷者も出さなかったことは奇跡と言われている。

火災は船体中央部の下から5番目のデッキ付近から出火。最上階の16デッキまで火災の影響を受けており、船体を再生するには非常に厳しい状態であった。納期が2003（平成15）年7月と迫っていたため、3カ月遅れで平行建造中のサファイアプリンセスを急ぎょダイヤモンドプリンセスとして改修、2004（平成16）年2月に7カ月遅れの納期で船主に引き渡した。

炎上した旧ダイヤモンドプリンセスは、5デッキから上の焼損部分を完全に撤去。再建造するという大改修工事を実施し、同年5月にサファイアプリンセスとして再生、完成させた。これは船舶建造史上

火災乗り越え客船新時代へ

類を見ない難工事で、完工できたことは奇跡に近いものであった。

私がこの客船再生に人生の一場面を賭すことができたのは、青陵高校時代に修得した「決してあきらめるな！ 信念を持って突き進め！ 明るい未来と夢を描け！」の精神に支えられたこと、後方では青陵卒業生の妻が家庭を守ってくれたからこそ成し遂げられたものと思っている。

冒頭の建造中の客船は、ダイヤモンドプリンセスの火災以降12年目に復活した客船建造である。本船の一日も早い完成を祈りながら、夢と希望に満ちた客船新時代の到来を確信している。

□…近藤さんは倉敷市出身、長崎市在住。

□…妻敏子さん（旧姓山崎）は20期生です。

私は青陵を卒業して45年、九州（博多）に住み着いて同じく45年。九州での生活が岡山（倉敷）での生活の2.5倍とはるかに長くなりました。倉敷に対する懐かしさや望郷の念はありますが、博多は海にも山にも近く、物価もそれほど高くなく、かなり住みやすい所です。食べ物も長浜ラーメン、うどん、水炊き、もつ鍋、餃子など安くておいしいものもたくさんあります。

九州青陵会 誕生から10年

母親を博多に引き取っており倉敷に帰る機会がほとんどありませんが、唯一の気掛かりは岡山市にある先祖墓でしょうか。

さて、九州青陵会の歴史についてですが、パソコンに残っているデータや記憶を頼りに少し書かせていただきます。

福岡にはかねてより福岡岡山県人会があり、それに2004（平成16）年に初参加しました。会の終了後、森田、溝手、泉、斎藤各先輩と青陵同窓会について話し合いをしました。その結果、青陵同窓会を福岡県と佐賀県に限定して開催しようという運びになり、私が事務局を仰せつかりました。そして第1回の福岡・佐賀地区の青陵同窓会が同年7月23日に開催されました。参加者は18人で、その後も20人弱の人数で推移しています。

2005（平成17）年7月16日の第2回からは本部より参加をいただき、石原会長と佐々木幹事が参加されました。翌年10月14日の第3回時に、石原会長より九州すべてを対象にした九州青陵会結成の提案があり、さらに次の年の9月28日の第4回より青陵の正式な支部同窓会として再出発しました。対象は九州の各県及び九州と商圏を同じくする山口県としました。2009（平成21）年、石原さんから加川会長に交代され現在に至っています。

2011（平成23）年からは学生を無料にして増員を図ったところ、毎年1～4人と確実に成果が出ています。来年からは、これまでの金曜日の開催を土曜日（2015年10月10日）にし、更なる増員を図ろうと考えています。

最後になりましたが、九州青陵会になお一層の関心をいただければ幸いです。

□…加藤さんは九州青陵会事務局長。倉敷市出身、福岡県福津市在住。

後輩の青春のお宝づくり

平成27年版の構想を練る今岡道雄さんと靖晶さん
倉敷の今岡写真館



最近では“卒アル”の名で親しまれる卒業アルバムを制作しているのが今岡写真館（倉敷市鶴形）の今岡道雄さん（13期）・靖晶さん（44期）父子です。

卒アルづくりは古く、青陵の前身、倉敷高女が現在地に移転した昭和13年ごろ、道雄さんの亡父茂さんの代に始めました。四十数年前に道雄さんが引き継ぎ、十余年前に靖晶さんが加わりました。親子孫三代でこれまでに作ったアルバムは75冊にものぼります。

父子で年間150回“密着取材”

当初はモノクロ、昭和50年代にオールカラー化してぐんと見栄えがよくなりました。極上の紙にハードカバーは以前からですが、ソフトケースだったのを最近では立派なハードケースに変えました。八十数ページの厚み、まるで豪華本のような体裁です。当時の校長が、「県内トップクラスの学校にふさわしい卒業アルバムに」

という要望に応えたものです。校庭の四季を追う道雄さんは、「桜やイチョウ、モミジ、それに雪の日は絶好のシャッターチャンス。私だけでも年間50回は足を運びます。（アルバムは）私立高校の体裁は知りませんが、他の県立高校の関係者には驚かれますよ。ページ数は製本の関係で、もう限界。一生ものですね」

と満足そうです。

全国でも屈指の出来栄

内容もちろん年々充実。卒業生の顔写真のほか、生徒や教職員の学校内外の多彩な思い出の瞬間をふんだんに収容しています。

入学式に始まり授業、青陵祭（文化祭・体育祭）、部活とその応援、修学旅行をはじめ保育実習や英語出前授業、国際交流、商店街実態調査、企業見学…など、行事と活動を丹念に追った中身の濃い写真がずらり。カラフルで躍動感いっぱい。

学校行事担当の靖晶さんは、「授業風景だけでも1週間、年間100回ほど“密着取材”します。生徒の顔写真はスタジオに来てもらって1人十数



母校青陵高校の卒業アルバム制作とクラス写真撮影を長年手掛けているOBがいます。いずれも母校のすぐそばで写真館を営んでいます。蓄積した技能を駆使して後輩の思い出づくり、青春のお宝づくりにひと役買っています。その写真館にお邪魔して制作や撮影の話、思い出話をうかがいました。

卒業アルバムづくり七十余年 今岡写真館父子が制作 他校びつくりまるで豪華本

カット撮った中から本人が一番気に入ったものを載せます。生徒と3年間付き合い顔見知りになるのでやりやすく楽しいですよ

と言う。

にっこりほほ笑む表情の柔らかな顔写真のページは秀逸です。さらにアルバムに収容できなかった写真をDVD化して付録にしています。写真の数800枚。なんともキメ細かい行き届いた編集作業です。最近では340冊ほど印刷、製本。価格は1万円。卒業式までに配ります。

日ごろの努力が実り、毎年開かれる日本商業写真家協会主催のスクールアルバムコンテスト高校の部の環境や装幀部門で過去7回上位入賞を果たしています。同協会の開くアルバムづくり研修会で研さんを積んだ賜物です。

全国二千数百校の中から上位に選ばれる結晶度の高い卒アルに感激し、お礼に来る卒業生もいるそうです。県内はもちろん全国でも屈指の卒アルです。

青陵愛、母校への恩返し

父子は、「校長をはじめ先生方の理解と協力が大きいですね。年中いろんな取材対象を提示してくれるので意欲がわきます。先生方に『青陵愛ですねえ』と言われるますが、その通りです」

と笑いながら、

「かわいい後輩のために去年より少しでもいいものをと毎年気持ちが悪スカレートしますよ。母校への恩返しです」

と、きっぱり結んでくれました。

創業110年の県内有数の老舗写真館。今後も邁進していただきたいと思います。

□…道雄さんの妻万智子さん（旧姓毛利）も15期生です。



最近の青陵の豪華な卒業アルバム

OBの写真館主ら長年奮闘



文化祭での茶道部のお茶会を取材中の今岡靖晶さん
＝青陵高校創立80周年記念会館



今岡写真館に並ぶスクールアルバムコンテストの入賞盾



スクールアルバムコンテストの入賞を伝える山陽新聞の記事
平成21年3月7日付

1年生のクラス写真を70年 サユリスト？

三宅写真館の三宅さん

クラス写真の撮影を手掛けているのは三宅写真館（倉敷市東町）の三宅邦和さん（16期）です。同じ日に1年生から3年生まで一斉に撮るため、市内の3業者が分担。三宅さんは亡父博太さんの時代から1年生を担当。現在8クラスの生徒手帳の身分証用顔写真約320人分も同時に撮ります。

亡夫が戦後創業。三宅さんは、「父は砂漠のような富井校舎で学んだ2期生（砂漠会）のころから写真を撮っていました。彼らと付き合いがあつてね、『一緒に酒を飲んだ』と言ってましたよ。今ではとても考えられませんが…。そのころから1年生を担当。私が引き継いだんですが、親子でもう70年になりますかねえ。この日は一日中忙しいです」

と言います。古き良き時代のひとコマです。



撮影中の三宅邦和さん

青陵のクラス写真のほか、結婚式とその前撮りを中心に七五三や成人式、幼保から大学までのクラス写真、行事、卒業アルバムづくりなど仕事は多彩です。

青陵時代は演劇部で活躍。ESSに頼まれ「ベニスの商人」に助っ人で出演したこともあるそうです。

「男子生徒は私1人。2年生の夏休み、大道具を作るのに顧問に呼び出され孤軍奮闘しましたよ」

「3年間各学年すべて5組。珍しいでしょう。もう1人の平井泰彦君と“オール5じゃ”と自慢？ してます」

早稲田大学へ進学。

「吉永小百合が進学するという情報が入ったのがきっかけです？ 水曜日の午後7時半に〇〇に現れる—という噂が広まってね。彼女はハンバーガーをほおぼってましたねえ。庶民的でした」

と、笑いながら面白いエピソードを話してくれました。とても愉快な人です。

この仕事に就いて45年。少子化と上向かない景気を懸念していましたが、後継者の息子さんとともに今後とも後輩のためにナイスな写真を撮り続けてください。

□…三宅さんは平成26年、空席だった同窓会の16期理事に就任しました。

生徒指導課長 難波 俊晴

青陵祭



第52回青陵祭「青彩～8色で架ける虹」が平成26年9月3日～5日の日程でにぎやかに開催されました。今年は1年生から3年生が8つの縦割りブロックに分か



壮絶な争いが展開された男子騎馬戦



やれ引け、それ引け！懸命に綱引き

れて、文化祭の部と体育祭の部からなる総合優勝を目指して競いました。年間行事の中で生徒にとっては最大のイベントであり、クラスだけでなく学年を超え、青陵生としての絆を深める絶好の機会となっています。

文化祭の部は、クラス・委員会・部活動・サークル・有志によるステージ発表や展示発表、ライブ、模擬店など多彩な催しで盛り上がりました。

最終日の体育祭の部は夜中に降った大雨のため、早朝から大勢の生徒・教員がグラウンド整備を行い、約1時間遅れの開始となりましたが予定通り全種目が行われました。8色のブロックTシャツがグラウンドいっぱいに躍動する姿を見せてくれました。体育祭は3年生がリーダーシップを発揮。ブロック全員一致団結して取り組む姿は、今も変わらぬ青陵の良き伝統です。

生徒指導課では生徒の知・徳・体の円満な発達を図り、激動の時代を生き抜くたくましい人間を育成するために、「豊かな心と健やかな体の育成」を目標に挙げて取り組んでいます。

「文武不岐」の実践

多くの生徒が勉強と部活動を両立。「文武不岐」を実践しています。

平成26年度（9月末現在）の主な成績は次の通りです。

【全国大会出場】

- バスケット部（男子）
インターハイ（チーム） 国体選抜へ2人参加
- 陸上競技部
男子2人（インターハイ） 男子1人（国体）
- 棋道部 男子団体5位（将棋）
- 書道部
女子1人全日本高校・大学生書道展大賞

【中国大会出場】

- 水泳部（男子・女子） 中国高校選手権
- 卓球部（女子） 団体・個人 中国高校選手権
- テニス部 男子ダブルス 中国高校選手権
- 剣道部 女子1人 中国高校選手権

部活動

こぼれ話

ズバリは6校。県立の川口青陵（埼玉）、相模原青陵（神奈川）、青陵（和歌山）、三次青陵（広島）、武雄青陵（佐賀）、私立の新潟青陵。川口青陵、相模原青陵は全日制普通科、青陵は昼夜間部の定時制、三次青陵は旧三次工業で総合学科、武雄青陵は中高一貫校、新潟青陵は系列の新潟青陵大

『青陵』高校は全国に6校

学を併設しています。

一字違いは清陵情報（福島）、青稜（東京）、諏訪清陵（長野）、大津清陵（滋賀）、大阪青稜、色違いは札幌白陵（北海道）、白陵（兵庫）と姉妹校の岡山白陵。なぜか「白」です。同音異字の星陵、西陵は全国にたくさんあります。

（全国高校便覧、インターネットより）

青陵の目指すもの

進路指導課長 三村 美紀

意欲わく先端研究者のOB出前講義

平成25年度主要大学合格状況

難関国立大学	人数
東京大	2
京都市大	9
大阪大	14
名古屋大	4
九州大	9
北海道大	2
神戸大	7
合計	47

国公立大学

筑波大	2
千葉大	1
東京学芸大	1
横浜国立大	3
京都工芸繊維大	1
奈良女子大	1
鳥取大	6
島根大	5
岡山大	7
広島大	11
山口大	1
徳島大	8
香川大	2
愛媛大	8
高知大	1
九州工大	6
大阪市立大	1
大阪府立大	4
神戸市外大	1
岡山県立大	13
その他の大学	69
合計	236

国公立医歯薬学科

医学科	6
歯学科	2
薬学科	4
合計	12

主な私立大学

国際基督教大	1
芝浦工大	1
中央大	4
津田塾大	3
東京女子医大	1
東京農大	2
東京理大	4
法政大	1
明治大	6
立教大	1
早稲田大	4
京都薬大	1
同志社大	32
立命館大	54
関西大	27
近畿大	17
関西学院大	24
岡山理大	17
川崎医療福祉大	24
清心女子大	46
産業医大	1
合計	271

平成25年度の成果報告

進路指導課では、「高質な学力の養成」と「夢の実現を追求する進路指導の充実」を重点目標に掲げ、生徒一人ひとりの進路実現を支援することに努めています。本校の進路指導の伝統は、きめ細やかで丁寧な学習指導と継続的で多様な学習活動を通じ、基礎学力の充実と個性の伸長を図ることにあります。この点は今もしっかりと受け継いでいますが、グローバル化が急速に進む知識基盤社会において、これから一層意識すべきは、「自ら学び、自ら考えて行動する主体として、生涯を通じて学び続ける意思と態度を育てること」と「広い視野を持ち、地域社会や国際社会のリーダーとして活躍できる人材を育成すること」の2点にあると考えています。単に大学合格をゴールとするのではなく、生徒にその先の職業や生き方、あり方のイメージを持たせ、将来、積極的に社会に参画、貢献する資質と能力を身に付けさせるための「キャリア教育」を展開することが理想です。

近年、具体的な取り組みとして力を入れていることのひとつが、県内の事業所を訪問するFuture Watchingです。今年も8月上旬に実施し、26カ所の訪問先に1年生を中心に延べ323人が参加しました。従来からご協力いただいている中国銀行、山陽新聞社、重井医学研究所等に加え、新たにナカシマプロペラ、岡山村田製作所にも受け入れをしていただきました。生徒たちは世界的な規模で事業を展開する会社が県内にあり、そこで活躍する青陵OBが大勢いらっしやることを知って大いに刺激を受けたようです。

また、学問の最先端に触れ、文理選択や志望学部の決定に資する機会として大学模擬講義を開催しています。今年は8月に九州大学工学部、10月に大阪大学基礎工学部、同志社大学経済学部の先生方をお招きしました。大阪大学からお越しくださった小林秀敏先生は24期OBで、ご専門の材料工学について楽しく分かりやすい講義をしていただきました。スポンジや御影石、発泡アルミなどに球を落下させて、どれが一番衝撃を吸収するかを見る実験では、生徒の予想が大きく外れ、意外な結果に驚きの声が上がっていました。11月には21期OBの岡山大学医学部教授平松祐司先生にお越しいただきました。青陵の諸先輩が研究者として各分野をリードされていることは、生徒の学問への関心と意欲の喚起につながっています。

東大・京大支援 現役9人合格 グローバルリーダーを育成

最後に昨年度発足した東大・京大の志望者支援についてご報告します。私たち青陵高校教職員は、本校に一定数の東大・京大合格者を出すことのできる進路指導が求められていることを承知しています。一昨年度の反省のもと、昨年さまざまな取り組みをした特別支援チームの成果は、東大2人、京大7人の現役合格で証明することができたと考えています。本年度はさらに指導担当教員を増やし、特別講座や添削指導、模試成績の分析、入試動向研究などを継続しています。岡山県を代表する進学校として、グローバルリーダーを育てることの喜びと誇りを感じながら、精いっぱい指導をしていきたいと思えます。

現在1年生は文理・科目・コース選択、2年生は志望校群や併願パターンの研究、3年生はセンター試験に向けて総仕上げの時期です。それぞれの学年団が丸となって教科指導、進路指導に当たっておりますので、同窓生の皆様におかれましては、今後とも後輩への温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



卒業生らの活躍ぶりを報じる新聞記事を見ながら談笑する卒業生ら

文化祭2日目の平成26年9月4日、校門脇の創立80周年記念会館に「同窓会コーナー」を開設、文化祭を見終わった人や休憩の人たちが続々訪れ、にぎわいました。飲み物のサービスもありほっと一息ついていました。

元美術部長で今春卒業したばかりの広島大学1年秦光平さん(65期)は、同期の元美術部副部

「同窓会コーナー」へOBら続々

長と一緒に文化祭を見て美術部顧問に挨拶した後、同窓会コーナーを訪問。「校庭を去って半年ですが懐かしいですよ。美術? 趣味でしたからね、文学部です。こういうコーナーっていいですね。知り合いに会ったら立ち寄るように言っときます」と喜んでいました。

文化祭 80周年記念会館に開設

カメラを携えて母ら2人と来た64期の女性は「在学中は茶道部、(県外の)大学では写真部です。文化祭の写真を撮りに来ました。明日の体育祭も撮影に来ます」と元気に話してくれました。

年配の卒業生も次々訪れ、壁に張り出された在校生の部活や卒業生の活躍ぶりを報じる新聞記事を見ながらお茶を飲み、くつろいでいました。応対する同窓会の世話役・山中(旧姓林)桂子さん=31期=も忙しそうでした。

来年はあなたの来訪をお待ちしています。

木堂さんの書を“解剖”し解説文



狸庵文庫美術館で展示会に向け犬養木堂の書の解説文を展示する書道部員＝平成25年10月

あの木堂さんの老練な書を読み解き、分かりやすい解説文を付けて展示。書道部（鈴木愛梨部長）は岡山市北区の狸庵文庫美術館開館1周年記念展にちなみ、平成25年11月、ユニークな展示コーナーを設け、多くの鑑賞者に見ていただきました。

同部顧問の金地真司教諭が、郷土の生んだ宰相・犬養木堂＝岡山市出身＝の書を研究していたことから同館の依頼を受けました。早速1、2年生部員8人が夏休みから準備。同館所蔵の書12点を選んで、難解な漢文を読み解き釈文と解説文を作品ごとにパネル展示しました。

さらに、個人的な感想を吹き出し形式で柔らかく表現。「『文』の一番下の『化』の文字は何でこんなに小さいの？ 書き忘れたのかな、言葉が割れるので改行を避けたのかな？」という素朴な疑問も提示しました。

書家としての評価も高い木堂の書を“解剖”、合わせて漢文と歴史の勉強にもなった実り多い企画でした。

12月には同館で金地教諭が「高校生が選んだ木堂の墨跡」をテーマにギャラリートークをしました。

このコーナーは平成26年3月までの5カ月間設けられ、注目を集めました。

金地教諭は「青陵生の感性の豊かさ、柔らかさが存分に発揮できた面白い取り組みでした。大人でも難しい仕事ですよ」と、満足そうに振り返っていました。

岡山の狸庵文庫美術館で展示会

天文部OG

“星のソムリエ”

小林祐子さん

プラネタリウムを組み立てようと、たくさんの天文部員が忙しそうに動き回る教室の廊下。青陵祭の文化祭開幕を明日に控えた平成26年9月2日、天文部OGで公認の星空案内人（星のソムリエ）の資格を持つ小林祐子さん（51期）が久しぶりに母校を訪問しました。

小林さんは顧問の藤澤晃教諭の案内で天文部員と対面。突然のタイムリーな先輩訪問に天文部員はびっくり。小林さんは組み立ての準備を見ながら「わあ、資材は私のころと一緒にあ、懐かしいなあ」と、驚きの声を上げました。

竹と紙でできたボートのような形をしたプラネタリウムの資材。星空を写す内側は白、外側は黒色です。組み立てるのが初めての下級生部員もいます。そこへ昨年の部長・仁科勝介君（3年）が来て下級生を初歩から指導。小林さんも手伝いました。

資材を補修した後、教室へ針金をを使って組み立て。直径4mの球形ドームが出来上がりました。内部の中心床面



久しぶりに校舎屋上の天文台に入った小林さん（右端）

母校を訪ねて



完成したプラネタリウム



天文部員とプラネタリウムを組み立てる小林さん（右から2人目）

に天体を映す投影機をセット。明日の文化祭を待つばかりとなりました。

小林さんが「卒業してちょうど15年。私のころの天文部員は9人ほどしかいませんでした」と言えば、仁科君は「今は60人ぐらいいます。年間行事は新入生歓迎観望会、合宿、月見など。毎年12月に見られるふたご座流星群は美星天文

台（井原市）へ観測に行きます」と、充実した活動ぶりを話してくれました。

その後、小林さんは部員と一緒に校舎屋上の天文台に向かいました。ドームの開閉などは手慣れたもの。「この天文台？60（歳）前の天文部の先輩にお会いしたことがあるので、開設してもう40年ぐらいになるんでしょうねえ」と、天文部の来歴を推測していました。

天文愛好家が集う「岡山アストロクラブ」の会員としても活動する小林さん。「 cometハンターを目標しますか？」の問いに「いやあ、とても…」と苦笑い。星のように明るく輝く“星のソムリエ”でした。

看護師という変則勤務の合間を縫って来校してくれた小林さん、文化祭準備で忙しい天文部の新旧顧問、部員の皆さん、ありがとうございました。

文化祭準備の部員と交流

恒例の岡山大学医学部青陵会（平松祐司会長・21期）が平成26年7月24日、岡山市北区下石井のオークホテル岡山で開かれました。医学部に入学した新入生の歓迎会を兼ねて毎年この時期に開いています。

今回は今春の新入生3人を含め23人が参加。取材を兼ねて出席させてもらいました。

平松会長（大学院教授、産科・婦人科）の開会あいさつに続いて、松尾信彦さん（1期）＝名誉教授、眼科＝の音頭で乾杯して開宴しました。

自己紹介を兼ねて全員が一人ずつ近況報告や思い出話。「四国遍路を17回達成しました。なぜこんなに取られたのか分からない」（松尾さん）、「30歳で医院を開業して40年になります。今から考えるとあの若さで無謀だったなあとと思います」（渡部＝旧姓岡田＝輝美さん・内科、14期）、「職場で青陵の先輩に会うと『頑張ってるか』と声をかけてくれます。この絆がたまらないんですよ」（平松会長）と、身近な話題で盛り上がります。

岡山大学医学部青陵会



近況報告で盛り上がる岡山大学医学部青陵会（立っている人が松尾信彦さん）＝オークホテル岡山



新入生を含めた若手の面々

新入生の一人が自己紹介。「実は僕3浪です。ストーカーのように受け続けました」。これには一同びっくり。「よくやったよ」と先輩から感嘆の声が上がりました。

医学部青陵会の歴史は古く優に50年を超えるそうで、組織もしっかりしています。毎年、医学部5年生が幹事役。今回は「将来は整形外科医になりたい」と言う井上智博さん（60期）が奮闘していました。

出席者は例年よりやや少なかったようですが、青陵同窓のつながりが一層深まったひと時でした。

名簿には131人が登録されています。青陵出身のこれまでの岡大医学部全卒業生と現役学部生、さらに他大学医学部から岡大医局に入った青陵生です。

西日本屈指の伝統と臓器移植など先端医療に果敢に取り組み、わが国医学界をリードする岡大医学部を青陵パワーがしっかり支えています。

同窓の太いパイプを通し、地域医療充実と後進の育成にますます貢献していただきたいと思います。

デザイナーとしての仕事の傍ら、倉式、龍の仕事展、倉敷路地市庭の3つの地域活性化イベントに取り組む久保田正彦さん（34期）。仕事の合間にお邪魔して活動ぶりをお聞きしました。

久保田さんは東京造形大学でデザインを専攻した後、ビルの壁面を造る造形会社やマーケティング会社で空間デザイナーとして勤務。仕事面や家庭の事情により平成12年、38歳で倉敷に帰郷しました。

デザインスタジオを経営。自治体や学校関係のポスター、ちらし、冊子を手掛けています。

倉敷をはじめ高梁川流域で家具や履物、食など新しいモノづくりに積極的に取り組む企業の力になりたいと、中・高校時代の友人や仕事仲間を声を掛けて手始めに立ち上げたのが住民参加型の地域活性化団体「倉式」。代表になり、同時に活動を記録に残そうと雑誌「倉式」を創刊、自ら



自ら立ち上げた企業の展示・販売会「龍の仕事展」会場の久保田さん＝平成26年9月、倉敷アイビースクエア

ますますニギ

取材・編集をしています。平成18年のことです。

倉敷をもじった「倉式」。倉敷でモノづくりのいろんな分野のタイプ(式)がつながる、という意味を含んでいます。

春と秋年2回、1万部発行。上質の紙を使ったオールカラー。創刊号から毎号田舎暮らしの特集、2号からはモノづくりに取り組む企業や個人を紹介。書店で販売する一方、掲載企業から協賛金を募り相当分をさばいてもらう手法をとっています。

平成22年の8号で発行を中断。今後は「あと3号出した後、不定期刊に変更して続けます」と久保田さん。

さらに同年、倉式に参加している新しいモノづくり企業の展示・販売会「龍の仕事展」をスタートさせ、事務局長になりました。「龍」は高梁川を表現しています。毎年9月の9日間、倉敷アイビースクエアで開催。毎回約2,000人が訪れる盛況ぶりです。

同23年には青空市「倉敷路地市庭」のイベントに実行委員として参加しています。1年中、ほぼ毎週土曜日に開かれ大変なにごわいです。

青陵時代、応援団に勧誘されたというがっしりした体格。テニス部を創設、陵歌生の一人であり、級友と九州一周自転車旅行をするなど行動派。今もその心意気は変わっていません。「(地域の)不平、不満を言う前に行動！これをモットーに地域をもっともっと元気になりたい」と物静かに語る熱い人でした。

ますますのご活躍をお祈りします。

□…久保田さんは青陵創立100周年記念誌に寄稿しています。



久保田さんが創刊した雑誌「倉式」。休刊中だが復刊を目指す

34期 久保田 正彦さん

倉敷の活性化へ地域イベントに奔走

不朽の第1作「桜花爛漫」

寄稿

5期生の私が青陵高校に入学したのは昭和26年4月です。旧制高校が廃止されて3年。新制大学に移行されていましたが、わが青陵高校は旧制高校の蛮カラの名残が色濃く残っていました。

特に私のいた柔道部には旧制高知高校出身の熱血顧問、英語の岩橋先生がおられ蛮カラの気風が横溢していました。岡山大学の前身、旧制六高柔道部歌の「北進歌」は今でも覚えています。

3年生の春ごろ、転校してきた田口重彦君が兄の物だと言って第三高等学校(今の京都大学)の寮歌集を持って来てくれました。我々はその寮歌集(楽譜付き)を見て口ずさみました。その寮歌が学生の寄贈歌であることを知り、一つ青陵にも寄贈歌を作ってやろうと思ったのが陵歌を作る動機でした。

私は中学のころから詩歌に興味を持ち、高校2年の教科書に出てきた室生犀星の「故郷は遠きにありて思うもの」の詩が(出身の)金沢で作られたものか、それとも東京で作られたものか、当時の国語の室山先生と論争をしたのを覚えています。

陵歌は歌詞を最初にイメージし旧制高校の寮歌が1番から4番まで春、夏、秋、冬の順番に作詞されていたのでそれに倣って作ったような気がします。

曲の方はなぜか自然に出来ました。おもちゃの卓上ピアノをぼろん、ぼろんと叩きながら作ったのが「桜花爛漫」です。期せずしてこれが第1作となりました。その時、仲間と相談、校名の一字をとって「陵歌」と名付けました。



□…陵歌はその後、各期の卒業生が寄贈歌を残す伝統が生まれました。29曲を確認、陵歌集が発行されています。このような伝統は岡山県内の高校では例がないと思われます。

寄贈陵歌をまとめた陵歌集 = 青陵高校同窓会所蔵

♪ 桜花爛漫 咲き乱れ



作詞・作曲者 仁科喜佐男 | 歌い継がれて60年

校名の一字をとり名付ける | 5期 (五陵会)

5期

五陵会を平成26年6月1、2日に名古屋の名鉄ニューグランドホテルで開きました。卒業後60年の「卒業還暦」です。東京や倉敷、大阪、地元の名古屋圏の約50人が元気に出席しました。

初日。名古屋で一番見たかったのは徳川美術館、そして広大な名古屋城。この日は暑く、35度を超えています。

宴会は平松巴幹事の司会で始まり、堀典雄会長が挨拶。東京五陵会は能登紀好君、関西五陵会は三宅学君、吉澤清子さんから行事予告がありました。久しぶりに会った千神昭士君の乾杯の発声で宴会本番。楽しく愉快な時間があっという間に過ぎていきました。



名古屋に勢ぞろいした五陵会のメンバー

霞漂う

昭和26～29年の青春時代の思い出、早くもあの世に行った友達の話、わが身の健康…。2時間半では全員と話さきれない、もっと時間が欲しいなあ。二次会も30人ほどで盛り上がりました。

庄巻は仁科喜佐男君がまるで青年のように素晴らしい張りのある声で「アルト・ハイデルベルク」を熱唱。みんなをうならせ拍手喝采でした。

ちなみに、我々5期生が寄贈した青陵名物・陵歌第1号「桜花爛漫」と第2号の「嗚呼木枯」。

つまり、5期生が陵歌生みの親です。在学中のことを覚えていますか？ 我ら1年生は週に3日、女子校だった美しい美和校舎と、床に穴があき冬は寒い富井校舎を交互に通学し勉強したことを。ピーポー（水島臨海鉄道）に乗って通いましたねえ。大変な時代でしたが思い出は多い。過ぎてみればみんな宝物です。貧困から成長への時代を生きさせてもらったのです。

2日目は明治村。地元の岸田裕君がボランティアガイドの手配をしてくれて、スムーズに見学することができました。解散後は犬山城に行く人、熱田神宮に参拝する人、ショッピングする人などさまざま。平成27年5月31日、倉敷での再会を楽しみに散会しました。(高橋 勝)

□…東京五陵会は平成27年4月15、16日に箱根で開きます。〈同期会〉コーナーは別刷り1面に続きます)

会員ミニ点描

(平成26年、現役を含む)

【就任】

＊片山幹雄さん(27期)が10月、日本電産(京都市)副会長執行役員に。最高技術責任者(CTO)を兼任、ロボット分野の新技术開発などを担当します。シャープの社長、会長を経てフェローを務めていました。

【当選】

＊八木茂さん(22期)が8月の岡山県早島町議選挙でトップ当選を果たしました。無所属での初出馬でした。

【受賞】

＊高田千尋さん(17期)が9月、詩集「冬に」で第14回中四国詩人賞を。収録した31編は、いずれも清澄な自然描写の奥に自らの内面を沈めた作品です。詩作40年。詩誌「黄薔薇」の同人代表で、前岡山県詩人協会会長。

＊小寺(旧姓安田)三喜子さん(12期)が3月、玉野市ゆかりの西行法師にちなむ短歌の第1回西行賞最優秀賞を。全国公募した273首の中から選ばれました。

【国際ボランティア】

＊岩田正晴さん(18期)が10月から2年間、JICAのシニアボランティアとしてアフリカのマラウイへ。首都リロングエイの都市開発プロジェクトの技術協力を行います。

【優勝】

＊古市(旧姓白神)博さん(2期)創業のうどんの「ふるいち」(倉敷市)が2月、「うどん日本一決定選手権U-1グランプリ2013」売上部門1位になりました。8月に東京で開かれた「うどん天下一決定戦2014」では売上、評価部門とも2位でした。

＊棋道部の将棋男子Aが5月、全国高校将棋県予選会(県高校将棋選手権)の団体A組で。メンバーは岡省吾、水口優、角田裕哉君の3人。B組も青陵CがV。個人戦は青陵同士の決勝戦となり小林達哉君が初優勝、村上郁斗君が準優勝しました。

＊棋道部の将棋男子Aが6月、県高校夏季将棋大会で団体2連覇を飾りました。メンバーは角田、小林、岡君の3人。準優勝も青陵Bでした。個人戦は利根川浩一君が制しました。

【出版】

＊近藤(旧姓渡辺)幸枝さん(13期)が5月、「投稿集 出合い」を自費出版。山陽新聞の「ちまた」や「泉」欄に掲載された身近雑記120編を150頁にまとめました。

□…早速、母校図書館に自費本を寄贈いただき、ありがとうございました。

【郷土史編集】

＊中庄の歴史を語り継ぐ会代表の戸板啓四郎さん(14期)が年1回、「中庄の歴史」を。帯江鉱山や偉人の逸話など多彩な内容。今年は第9号を発行しました。

【冊子執筆】

＊大森久雄さん(9期)が、9月に備中倉敷学が発行した冊子「倉敷伝建地区の歩み」を。江戸時代から現代までの倉敷中心街の歩みを50項目に分け簡潔にまとめています。元高校教諭。平成24年、くらしきまちや賞受賞。

【スケッチ展】

＊アマチュア画家の水間正雄さん(元在職教員)が10月、高梁市の高梁国際ホテルで開きました。「黒田官兵衛の足跡を訪ねて」をテーマに水彩画、パステル画40点を展示。毎年、大河ドラマをテーマにしています。元保健体育教諭。

◎…生物学者の同窓生がアメリカ最高権威の医学賞「ラスカー賞」を受賞！という、わが国はもちろん世界が注目するビッグニュースが飛び込んできました。しかも、いきなりノーベル賞の有力候補となり青陵高校と同窓会は期待をして結果を待ちました。朗報は来年に持ち越されましたが早速、在校生へのメッセージをお願いしました。

◎…長年、母校の卒業アルバムづくりを手掛けている写真館の父子OBを訪ねて話を聞きました。行事や授業などほぼ年中、学校内外で密着取材、修学旅行にも同行します。他校の評判になるほどの立派な体裁と内容の濃い仕上がり。後輩への熱い思いの伝わる「おまづくり」を今後もお願いいたします。

◎…前号の「砂漠の2期」に続いて今号は「陵歌の5期」に登場してもらいました。校歌とともに同窓会で必ず歌われる陵歌第1号「桜花爛漫」を知らない青陵同窓生はいません。その名曲の生みの親に誕生秘話を寄稿いただきまました。旧制高校の名残漂う陵歌は誇るべき青陵の伝統と歴史の象徴です。

◎…今号は広告特集、別刷りにして4ページ増やし計20頁としました。伝統ある岡山大学医学部青陵会を訪ね、OGの天文部来訪、在校生の活躍など盛りだくさんです。(S)

編集後記

同期会開きました

6期

平成26年4月11日
まきび会館
20人参加

15期

平成26年8月3日
倉敷アイビースクエア
65人参加

16期 (柴田一先生を囲む会)

平成26年8月3日
岡山 まつのき亭
15人参加

25期

平成26年1月2日
倉敷国際ホテル
52人参加 (恩師3人)

36期

平成26年1月2日
倉敷アイビースクエア
127人参加 (恩師7人)

開催予定

28期

平成27年1月3日
午後1時～
倉敷アイビースクエア

62期

平成26年12月30日
午後6時～
倉敷アイビースクエア

今後の予定

本部総会

平成27年8月2日(日)
午前10時から
倉敷アイビースクエア
(当番期)7と8の付く期と
本年度の卒業生。

東京青陵会

平成27年6月27日(土)
午後3時から
明治記念館

近畿青陵会

平成27年5月24日(日)
正午から
大阪・太閤園

九州青陵会

平成27年10月10日(土)
午後1時から
西鉄グランドホテル

岡山県立倉敷青陵高等学校「同窓会だより 青陵」第46号

発行 岡山県立倉敷青陵高等学校同窓会
[事務局] 〒710-0043 倉敷市羽島1046-2
TEL:086-422-8001 FAX:086-422-8004
e-mail:seiry05@pref.okayama.jp
URL:http://www.seiry.okayama-c.ed.jp

発行人 加川英郎(4期)/編集委員 佐藤豊行(18期) 船越勝(28期) 三浦由嵩(サラト)
印刷・デザイン 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

同窓会だより 「会員ミニ点描」など会員の情報をお寄せください。

平成26年9月3日～5日、青陵高校の最大イベントである青陵祭が開催されました。

3日、4日は文化祭で、ステージでのプログラムや展示など多くの発表がありました。展示部門では、お化け屋敷やモザイクアート、ステージ部門では、白雪姫や現代版伊勢物語などがあり、どの団体も創意工夫を凝らした素晴らしい発表をしていました。2日目には模擬店や有志バンドなどがありました。オープニングセレモニーなどいろいろな場面でブロック長のパ

本年
度の青陵祭
で、文化祭に
おいて新聞部
が発行した「青陵笑辞典



vol.18」が展示部門／部・委員会
の部で最優秀賞をいただきました。印刷した約400部すべてを売り切ることができ、皆さんからは「面白かった」の声をいただいた上に、青陵最優秀賞を受賞することができて
しく思っています。

笑辞典の製作は部員5人（3年生2
が協力しました。先生方へアンケート、記事製作には多くの方が関わ
の先輩や3年生のサポートに支えら

青陵祭が終わった後、嬉しいこ
部してくれました。これによって

3年生が行ったプログラム
最後のエール交歓・体育祭



新聞部の「笑辞典」が最優秀賞

人、2年生3人）トを実施するな
ています。製本作業はOG
れました。

とに1年生3人が新たに新聞部に入
新聞部は2年生と1年生合わせて6人で活
動することになりました。

先生方、OBの先輩、新聞部をサポートしてく
ださった3年生、笑辞典を購入してくださった皆
さんのおかげで最優秀賞をいただくことができまし
た。本当にありがとうございました。これからも「青陵笑辞典」
をはじめ、新聞部をよろしく願います。青陵笑辞典に掲載す
るネタも募集中です。



青春を駆け抜けろ！ 青彩



有志バンドで盛り上がるステージ文化祭

ました。当日のグラウンド状態は最悪で早朝から全校生徒でグラウンドの
できました。各ブロックの個性的な
脚、ブロック演技やブロック対抗り
まれました。エール交歓では、青陵
きた3年生の輝く笑顔が見られまし
域を超え、青陵生が一つになった体
育祭でした。

青陵祭の準備期間から本番までの約3カ月、私たち
一人ひとりが自分の持っている力を最大限に発
揮しました。「青彩～8色で架ける虹」のテーマ
通り青春の風に乗れ、青陵の空に8色

の虹を架けることができたと思
います。青陵祭で培われた団結力
をもって今後の学校
生活をより充実した
ものにすべく努
力していきます
しょう。



(記事・写真 新聞部)

ますます元気

岡山や東京で洋画家として活躍する
椋野(旧姓森)茂美さん＝家政科
18期＝の猫のイラスト作品が、絵
はがきとして岡山市北区の招き猫美
術館で販売されています。

花をモチーフにする椋野さんの作
品は、赤い花びらの中に愛嬌のある
黒猫が尾を立てて座っています。

同美術館が毎年招き猫をテーマに全国公募。それにちなみ、
招待作家として椋野さんの作品が求められたものです。

平成26年春ごろ発売。1枚100円です。

作品が招き猫美術館の絵はがきに 画歴半世紀、椋野茂美さん

椋野さんは絵が好きで、小学校時代から画塾で勉強。青陵
時代もちろん美術部で福島隆壽先生の指導を受け、50代で
岡山大学の研究科(美術)に1年通って勉強し直す熱心さ。
画歴はすでに半世紀を超えています。

東京・銀座、軽井沢、岡山の3カ所を3年で巡回する個展の
ほか、ローマで1回、上海ではアートフェアに3回出品するな
ど、海外にも進出しています。

平成26年7月には倉敷天満屋で開かれた現代洋画人気作家
六人展の1人として近作7点を出品。初めての里帰り展となり
ました。

現在、日本美術家連盟会員、岡山県美術家協会会員。

今後も人々に感動を与える円熟した作品を生み出されるこ
とを期待しています。

□…椋野さんは高校時代は演劇部を兼ねていました。倉敷市
出身、東京都在住。



招き猫美術館の絵はがきになった
椋野茂美さんのイラスト作品

展覧会

大きな板に箱を10個ほど整然と取り付けた作品。箱の中は丸
い金属や枯れ木。材料はほとんど木。これって絵画？ 絵筆で
塗った部分がほとんどなくて絵のイメージはなく、まるで彫刻
のよう。

青陵高校芸術科(美術)教諭で美術部顧問・船越勝さん(28期)
の初個展が平成26年5月1日から29日まで、倉敷市松島の川崎医
科大学附属病院ギャラリーホリスティック(3F)で開かれました。

ユニーク、絵？ 彫刻！

会場には大小9
点の特異な作品が
展示されました。
船越さんに聞くと、
「絵と彫刻の中間で
すかねえ」と笑い
ながら言います。

「メインの大作2
点を中心にしたほ



ユニークな作品の並ぶ個展会場に
立つ船越勝さん＝川崎医科大学附
属病院ギャラリーホリスティック

青陵美術教諭 船越勝さん初個展

ば一連の作品なんですよ。人間と自然の共生、特に山の生命
力を木で表現したもので東日本大震災をイメージしました」と
説明してくれました。2点は題して「樹の記憶」Ⅰ、Ⅱ。
いずれも100号程度の迫力ある仕上がり。

船越さんは倉敷市出身。筑波大学芸術専門学群美術専攻を
卒業。これまでに光風会展光風賞、岡山県美術展山陽新聞社
賞など受賞多数。公私にわたり活躍しています。

□…船越さんは在学中も美術部。現在、青陵高校同窓会係主任、
「同窓会だより 青陵」編集委員。岡山市在住。